

1. 東北療護センター遷延性意識障害度スコア表 (広南スコア)

障害の程度 臨床症状 grade clinical symptom	重度 extreme (10)	高度 severe (9)	中等度 moderate (8 or 7)	軽度 mild (5)	極く軽度 slight (0)
1. 自力移動	1) 自発運動全くなし 2) 四肢は伸展または屈曲位で拘縮 3) 疼痛刺激にて逃避運動ないか、または軽度のふるえがあり、または軽度のふるえがあり、息づかいが荒くなる	1) 自発運動全くないか、四肢のごく一部をわずかに動かす 2) 四肢は一部は拘縮位、一部は麻痺 3) 疼痛刺激にて逃避運動あるか、なくとも顔を明らかにしかめる	1) 時に四肢の全部又は一部に自発運動があるが無目的である 2) 四肢の麻痺はあってもよい 3) 疼痛刺激を払いのける (*比較的よい(動きなど)場合は7点)	1) 時に合目的自発運動あり 2) 検者にまねて、上肢挙上または不十分でもバンザイの肢位をとる	1) 意思をもって自発運動可 2) 自力で体位交換(一部でも)可能 3) 車イスに乗せると不十分でも自力で動かす
2. 自力摂食	咀嚼、嚥下全く不能で経管栄養(胃ろう又は経鼻)	1) 殆ど経管栄養 2) ツバを飲み込む動作または咀嚼する動作あり 3) 多少ならジュース、プリンなどの経口摂食の試みが可能	1) 咀嚼可、または咀嚼はダメでも嚥下大略可能で、介助により経口摂取するがときにむせる 2) 経口栄養の不足分は経管で補う (*比較的、経口上手な場合は7点)	1) 自力嚥下可能、咀嚼不十分でもよい 2) 全粥、キザミ食を全量介助にて摂取可 3) スプーンを持たせると口に運ぶ動作あり、または不十分ながら食物を口に入れる。	不十分ながらも自分でスプーンで食べる
3. 尿尿失禁状態	排尿、排便時に体動等全く認められず	排尿、排便時、多少の体動等あり	失禁はあるが、イヤな顔をする、または体動が多いなどの合図あり (*比較的明確な合図は7点)	1) 定期的に排便、排尿させることにより、失禁を予防できる 2) 失禁あるも、周囲にわかる(独自の)教え方をする	夜間を除き、失禁せず教える
4. 眼球の動きと認識度	1) 開眼しない 2) 開眼しても瞬目反射なし	1) 開眼し瞬目反射あり 2) 追視せず、焦点が定まらない	1) 声をかけた方を直視する 2) 移動するものを追視する。TVを凝視するが、内容の理解は不可 (*素早い直視7点)	1) 近親者を判別し、表情の変化がある 2) 気に入った絵などをみて表情が変わる	1) 簡単な文字を読む 2) 数字がわかる 3) TVを見てその内容に反応し、笑う
5. 発声と意味のある発語	1) 発声、発語全くなし 2) 気切の場合でも口の動きもない	1) 発声(うめき声)等があるが、発語なし 2) 気切の場合、何らかの口の動きあり	1) 何らかの発語あるが全く意味不明 (*比較的明確なら7点) 2) 呼名にときに不明瞭な返事がある (*比較的明確なら7点) 3) 気切の場合、呼名に対する口の動きあり (*比較的明確なら7点)	1) ときに意味のある発語あり 2) 呼名に返事あり 3) 気切の場合、検者の口真似をする	1) 簡単な問いかけに言葉で応じることができる 2) 気切の場合、口の動きが問いかけの内容に合っている
6. 簡単な従命と意思疎通	呼びかけ(命令)に対する応答全くなし	呼びかけに対し、体動、目の動きなどの何らかの反応あり	呼びかけにときに応じることもあるが、意思疎通は図れない (*明確な反応は7点)	簡単な呼びかけに時に応じ、時に意思疎通が図れる	呼びかけに合目的にかなり応じ、ほぼ正確な意思の疎通あり
7. 表情変化	周囲の刺激(もの音)、TV等に全く表情を動かさず	周囲の刺激の有無に関係なく笑う(空笑)、泣く、怒るなどの表情変化あり	周囲の刺激の内容に合わせてまれに表情の変化を示す (*明確な表現変化は7点)	周囲の刺激に対しかなり忠実に泣く、笑う、怒るなどの表情変化を示す	周囲の刺激に対し、正確に泣く、笑うなどの表情変化を示す

2. 遷延性意識障害度スコアによる患者の重症度分類

総計最悪点 70 点、最良点 0 点で、70~65 点：

最重症例(完全植物症)、64~55 点：重症例(完全)、54~40 点：中等症例(不完全)、39~25 点：軽症例(移行型)、24 点以下(脱却例) としている。

3. スコア判定の凡例

1. 自力移動

- ・自発運動全くなし。四肢は伸展または屈曲位で拘縮。疼痛刺激にて逃避運動ないか、または軽度のふるえがあり、息づかいが荒くなる。10点
- ・自発運動全くないか、四肢のごく一部をわずかに動かす。四肢の一部は拘縮位、一部は麻痺。疼痛刺激にて逃避運動あるか、少なくとも顔を明らかにしかめる。9点
- ・時に四肢の全部又は一部に自発運動があるが無目的である。四肢の麻痺はあってもよい。疼痛刺激を払いのける。8点～7点
- ・時に合目的自発運動あり。検者にまねて、上肢挙上又は不十分でもバンザイの肢位をとる。5点
- ・意志をもって自発運動可。自力で体位交換（一部でも）可能。車イスに乗せると不十分でも自力で動かす。0点

2. 自力摂取

- ・咀嚼、嚥下全く不能で経管栄養（胃ろう又は経鼻）。10点
- ・殆ど経管栄養。ツバを飲み込む動作または咀嚼する動作あり。多少ならジュース、プリンなどの経口摂取の試みが可能。9点
- ・咀嚼可、又は咀嚼はダメでも嚥下大略可能で、介助により経口摂取するがときにむせる。経口栄養の不足分は経管で補う。8点～7点
- ・自力嚥下可能、咀嚼不十分でもよい。全粥、キザミ食を全量介助にて摂取可。スプーンを持たせると口に運ぶ動作あり、又は不十分ながら食物を口に入れる。5点
- ・不十分ながらも自分でスプーンで食べる。0点

3. 尿管失禁状態

- ・排尿、排便時に体動等全く認められず。10点
- ・排尿、排便時、多少の体動等あり。9点
- ・失禁はあるが、イヤな顔をする、又は体動が多いなどの合図あり。8点～7点
- ・規則的に排便、排尿させることにより、失禁を予防できる。失禁あるも、周囲にわかる（独自の）教え方をする。5点
- ・夜間を除き、失禁せず教える。0点

4. 眼球の動きと認識度

- ・開眼しない。開眼しても瞬目反射なし。10点
- ・開眼し瞬目反射あり。追視せず、焦点が定まらない。9点
- ・声をかけた方を直視する。移動するものを追視する。TVを凝視するが、内容の理解は不可。8点（*素早い直視7点）
- ・近親者を判別し、表情の変化がある。気に入った絵などをみて表情が変わる。5点
- ・簡単な文字を読む。数字がわかる。TVを視てその内容に反応し、笑う。0点

5. 発声と意味のある発語

- ・発声、発語全くなし。気切の場合でも口の動きもない。10点
- ・発声（うめき声）等あるが発語なし。気切の場合、何らかの口の動きあり。9点
- ・何らかの発語あるが全く意味不明。呼名にときに不明瞭な返事がある。気切の場合、呼名に対する口の動きあり。8点（*比較的明確なら7点）
- ・ときに意味のある発語あり。呼名に返事あり。気切の場合、検者の口真似をする。5点
- ・簡単な問いかけに言葉で応じることができる。気切の場合、口の動きが問いかけの内容に合っている。0点

6. 簡単な従命と意思疎通

- ・呼びかけ（命令）に対する応答全くなし。10点
- ・呼びかけに対し、体動、目の動きなどの何らかの反応あり。9点
- ・呼びかけにときに応じることがあるが、意思疎通は図れない。8点（*明確な反応は7点）
- ・簡単な呼びかけに時に応じ、時に意思疎通が図れる。5点
- ・呼びかけに合目的にかなり応じ、ほぼ正確な意思の疎通あり。0点

7. 表情変化

- ・周囲の刺激（もの音）、TV等に全く表情を動かさず。10点
- ・周囲の刺激の有無に関係なく笑う（空笑）、泣く、怒るなどの表情変化あり。9点
- ・周囲の刺激の内容に合わせてまれに表情の変化を示す。8点（*明確な表情変化は7点）
- ・周囲の刺激に対しかなり忠実に泣く、笑う、怒る、などの表情変化を示す。5点
- ・周囲の刺激に対し、正確に泣く笑うなどの表情変化を示す。0点

4. 参考文献

- 1) Fujiwara S, Nakasato N, Ogasawara K, et al : Evaluation of the severity of prolonged consciousness disturbances after head injury: A scoring system developed in our department. Proceedings of the 2nd Annual Meeting of the Society for Treatment of Coma 2:173-183, 1993
- 2) 藤原 悟、中里信和、長嶺義秀、吉本高志、末松克美、武田利兵衛、高橋州平、小田英世、大橋靖雄：遷延性意識障害の重症度評価尺度の信頼性と因子構造。脳神経49：1139-1145,1997
- 3) 藤原 悟、吉本高志：頭部外傷後遺症に対する治療法の進歩-慢性期意識障害の診断と治療-。図説脳神経外科New Approach11：194-199,2000